

活動を

機能回復 障害克服

育む医学

5



公益社団法人

日本リハビリテーション医学会

2022



公益社団法人
日本リハビリテーション医学会
理事長
京都府立医科大学 特任教授

久保 俊一

人々の活動を育む医学

広がるリハビリテーション医学・医療のニーズ

出生数が減り、高齢化率の上昇が著しいわが国では、疾病構造が急速に変化し、必要とされる医療の内容も大きく移り変わってきました。中でも、リハビリテーション医学・医療は少子・超高齢・多死社会から受ける影響が大きい分野です。

わが国のリハビリテーション医学・医療の原点は、戦前の急性灰白髄炎（脊髄性小児麻痺：ポリオ）、骨・関節結核、脳性麻痺などの肢体不自由児に対する療育にあるとされています。戦中は戦傷、戦後と高度成長期には労働災害や交通事故で対象となる患者が急増し、四肢の切断、骨折、脊髄損傷のリハビリテーション医学・医療が大きな課題となりました。そして、超高齢社会となった現在、リハビリテーション医学・医療の対象として、小児疾患や切断・骨折・脊髄損傷に、中枢神経・運動器（脊椎・脊髄を含む）・循環器・呼吸器・腎臓・神経・筋の疾患、関節リウマチ、摂食嚥下障害、聴覚・前庭・顔面神経・嗅覚・音声障害、がん、スポーツ外傷・障害などが積み重なりました。さらに、周術期の身体・精神機能障害の予防・回復、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームなども加わり、ほぼ全診療科に関係する疾患、障害、病態を扱う領域になっています。

「活動」が可能性を広げる

「日常での活動」である、起き上がる、座る、立つ、歩く、手を使う、見る、聞く、話す、考える、衣服を着る、食事を摂る、排泄をする、寝る、などが組み合わせられ、かつ有機的に行われることにより、掃除、洗濯、料理などの「家庭での活動」、学校・職場・スポーツ・地域などにおける「社会での活動」に繋がっていきます。ひとつひとつの「活動」があらゆる可能性を広げます。

リハビリテーション医学・医療の教育体制の整備

リハビリテーション科医とは、さまざまな疾患、障害、病態などにより低下した機能と能力を回復させ、残存した障害や不利益を克服する、「人々の活動を育む医学」を専門とする医師です。

リハビリテーション科医がカバーする領域は幅広く、その役割は他科と比べてきわめて大きいと言えます。また、リハビリテーション科では、多くの専門の職種とともにリハビリテーション医療チームをつくり、リハビリテーション診療を実践しています。そして、医師のみでなく各関連専門職の教育も含めたリハビリテーション医学・医療の教育体制の整備は喫緊の課題です。

会員数・専門医数

本医学会の2022年4月時点での会員数は11,789名で、専門医数は2,765名です。

学術集会

- 第59回日本リハビリテーション医学会学術集会（2022年6月23-25日）
- 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会（2022年11月4-6日）

活動を育む

日常での「活動」

起き上がる、座る、立つ、歩く、手を使う、見る、聞く、話す、考える、衣服を着る、食事を摂る、排泄をする、寝る、など

家庭での「活動」

掃除、洗濯、料理、買い物、など

社会での「活動」

学校生活、就業、地域行事・スポーツ、など



リハビリテーション医学・医療の主な対象

イラスト提供：日本リハビリテーション医学教育推進機構

脳血管障害・頭部外傷 	運動器の疾患・外傷 	脊髄損傷 	神経筋疾患 	切断(外傷・血行障害・腫瘍など) 	小児疾患 	リウマチ性疾患
循環器疾患・呼吸器疾患・腎疾患・糖尿病・肥満 	周術期の身体機能障害 	摂食嚥下障害 	聴覚・前庭・顔面神経・嗅覚・音声障害 	がん(悪性腫瘍) 	スポーツ外傷・障害 	骨粗鬆症、熱傷 サルコペニア ロコモティブシンドローム フレイル

急性期・回復期・生活期のリハビリテーション医療

3つのフェーズにおける疾患・外傷の専門的治療、リハビリテーション治療、リハビリテーション支援、介護における医師によるリハビリテーションマネジメントの位置付けとその比重を示しました。

急性期	回復期	生活期
疾患・外傷の専門的治療	疾患・外傷の専門的治療	疾患・外傷の専門的治療
リハビリテーション治療 ・機能の回復 ・活動の低下防止と早期改善	リハビリテーション治療 ・機能の回復 ・能力低下の最小化 ・活動の積極的な改善	リハビリテーション治療 ・障害の克服・改善した活動の維持 ・さらなる活動の改善 介護における医師による リハビリテーションマネジメント
リハビリテーション支援 家庭・社会活動へのアプローチ(準備)	リハビリテーション支援 家庭・社会活動へのアプローチ(準備促進)	リハビリテーション支援 家庭・社会活動へのアプローチ(実践)

リハビリテーション診療

リハビリテーション診療の3つのポイント

- リハビリテーション診断 [活動の現状と問題点の把握、活動の予後予測]
- リハビリテーション治療 [活動の最良化]
- リハビリテーション支援 [活動の社会的支援]

リハビリテーション治療

●理学療法 運動療法、物理療法 ●作業療法 ●言語聴覚療法 ●摂食機能療法 ●義肢装具療法 ●認知療法 ●心理療法 ●電気刺激療法 ●磁気刺激療法 rTMS (repetitive transcranial magnetic stimulation) など
●ブロック療法 ●薬物療法(漢方を含む) 疼痛、痙縮、排尿・排便、精神・神経、循環・代謝、異所性骨化など ●生活指導 ●排尿・排便管理 ●栄養療法 ●手術療法 ●新しい治療 ロボット、BMI (Brain Machine Interface)、再生医療、ICT (Information and Communication Technology) や AI (Artificial Intelligence) の活用など

リハビリテーション診断

●問診 ●身体所見の診察 ●各種心身機能の評価・検査 ●ADL・QOL の評価 FIM (機能的自立度評価法)、Barthel 指数など ●栄養評価 ●画像検査 単純 X 線、エコー、CT、MRI など ●血液・生化学検査 ●電気生理学的検査 筋電図、神経伝導検査、脳波、体性感覚誘発電位 (SEP)、心電図など ●生理学的検査 呼吸機能検査、心肺機能検査 など ●摂食嚥下機能の検査 反復唾液嚥下テスト、水飲みテスト、嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査など ●排尿機能検査 ●病理学的検査 神経・筋生検など

リハビリテーション支援

●家屋評価・住宅改修 ●福祉用具 ●支援施設 (介護老人保健施設：老健、介護老人福祉施設：特養) ●経済的支援 ●就学・復学支援 ●就労・復職支援 (職業リハビリテーション) ●自動車運転の再開支援 ●法的支援 介護保険法、障害者総合支援法、身体障害者福祉法、児童福祉法など ●パラスポーツの支援



教育

リハビリテーション科は基本領域の1つです

リハビリテーション科は一般社団法人日本専門医機構が定める19の基本領域の1つであり、2018年度から新専門医制度による研修がスタートしています。リハビリテーション科では、「活動」に視点をおいて診療を行い、医療・介護・福祉の領域で重要な役割を果たしています。リハビリテーション診療には、診断・治療・支援の3つのポイントがあります。すなわち、活動の現状と問題点を把握しながら、活動の予後を予測するリハビリテーション診断のもと、活動の最良化を図るリハビリテーション治療を行い、治療と並行して環境調整や社会資源を活用したリハビリテーション支援を実施します。

刊行物



リハビリテーション 医学・医療
コアテキスト
(2018年・医学書院)



リハビリテーション 医学・医療
コアテキスト2版
(2022年・医学書院)



リハビリテーション 医学・医療
Q&A
(2019年・医学書院)



リハビリテーション 医学・医療
用語集
(2019年・文光堂)



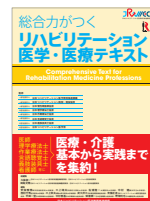
急性期のリハビリテーション
医学・医療テキスト
(2020年・金芳堂)



回復期のリハビリテーション
医学・医療テキスト
(2020年・医学書院)



生活期のリハビリテーション
医学・医療テキスト
(2020年・医学書院)



総合力がつづく
リハビリテーション
医学・医療テキスト
(2021年・日本リハビリテーション医学
教育推進機構)



社会活動支援のための
リハビリテーション 医学・医療
テキスト
(2021年・医学書院)



脳血管障害のリハビリテーション
医学・医療テキスト
(2021年・医学書院)



内部障害のリハビリテーション
医学・医療テキスト
(2022年・医学書院)



リハビリテーション 医学・医療
における栄養管理テキスト
(2022年・医学書院)



耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の
リハビリテーション 医学・医療
テキスト
(2022年・日本リハビリテーション医学
教育推進機構)



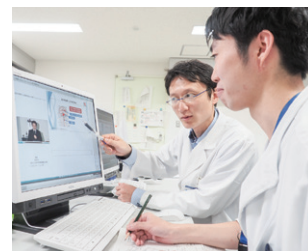
運動器疾患・外傷の
リハビリテーション 医学・医療
テキスト
(2022年・医学書院)

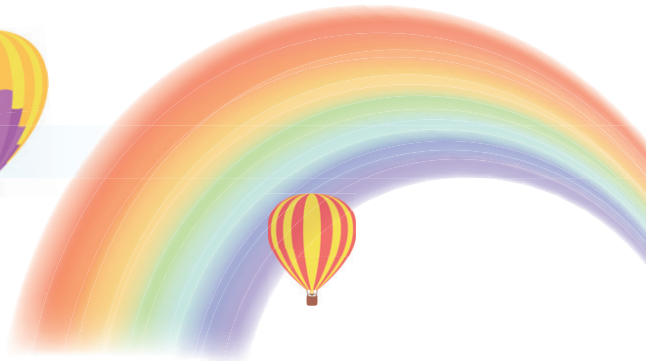
研修会の企画と開催

- 実践リハビリテーション医学研修会
(脳血管障害、運動器疾患、摂食嚥下障害、循環・呼吸・代謝疾患、などに関して)
- 急性期病棟におけるリハビリテーション医師研修会
- 回復期リハビリテーション病棟専従医師研修会
- 生活期のリハビリテーション医療にかかわる医師のための研修会
- リハビリテーション科医になろうセミナー
- かかりつけ医のための訪問リハビリテーション診療に関わる研修会
- リハビリテーション関連専門職研修会
- その他、教育連携学術団体と共同で行う研修会

e-learning

e-learning は、日頃から忙しい会員の先生方のために、自分のスケジュールに合わせて、いつでも、どこでも、何度でも、リハビリテーション医学・医療について学ぶことができる便利なサービスです。会員であれば無料で本医学会ホームページから閲覧できます。





リハビリテーション医療チーム

各関連専門職がリハビリテーション医学・医療を総合的に学べる教育システムが必要です。



専門医、各担当診療科の医師、
歯科医師、関連の専門の職種、
学生、行政職など、幅広い方々
が活用できるテキストです。実践
的で総合的な視野を養える内容
となっています。

■総合力がつく
リハビリテーション
医学・医療テキスト
(2021年・
日本リハビリテーション
医学教育推進機構)

教育連携

■一般社団法人

日本急性期リハビリテーション医学会

■一般社団法人

日本生活期リハビリテーション医学会

●一般社団法人日本急性リハビリテーション医学会 事務局
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-18-12 内神田東誠ビル2階
●Email kyuseiki@jarm.or.jp

●一般社団法人日本生活期リハビリテーション医学会 事務局
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-18-12 内神田東誠ビル2階
●Email seikatsuki@jarm.or.jp

■一般社団法人

日本リハビリテーション医学教育推進機構



●京都事務局
〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町422 国立京都国際会館6階
●Email office@jrmecc.or.jp ●ホームページ <https://jrmecc.or.jp>

●和歌山事務局
〒641-8509 和歌山市紀三井寺811-1
和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座内

社会貢献



■パラスポーツ・
パラリンピックの支援



■災害時の
リハビリテーション医療支援



■Inclusive Society
(寛容社会) 実現への貢献

役員一覧

(2022 年度 4 月現在)

理事長	久保 俊一	京都府立医科大学 特任教授
	安保 雅博	東京慈恵会医科大学 教授
副理事長	才藤 栄一	藤田医科大学 最高顧問
	佐浦 隆一	大阪医科薬科大学 教授
	田島 文博	和歌山県立医科大学 教授
	浅見 豊子	佐賀大学 教授
	上月 正博	山形県立保健医療大学 理事長・学長
理事	小林 龍生	防衛医科大学校 名誉教授
	近藤 和泉	国立長寿医療研究センター 病院長
	近藤 國嗣	東京湾岸リハビリテーション病院 院長
	佐伯 覚	産業医科大学 教授
	島田 洋一	秋田県立療育機構 理事長
	下堂 蘭 恵	鹿児島大学 教授
	菅本 一 臣	生和会彩都リハビリテーション病院 局長
	千田 益生	岡山大学 教授
	津田 英一	弘前大学 教授
	中村 健	横浜国立大学 教授
	芳賀 信彦	国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局長
	花山 耕三	川崎医科大学 教授
	正門 由久	東海大学 教授
	川手 信行	昭和大学 教授
	監事	道免 和久
和田 郁雄		愛知淑徳大学 教授
緒方 直史		帝京大学 教授
事務局幹事	角田 亘	国際医療福祉大学 教授
	新井 貞男	日本臨床整形外科学会 理事長
特任理事	生駒 一憲	医療法人喬成会花川病院 副理事長
	植木 美乃	名古屋市立大学 教授
	海老原 覚	東北大学 教授
	大串 幹	兵庫県立リハビリテーション中央病院 診療部長
	影近 謙治	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 院長
	加藤 真介	徳島赤十字ひのみね総合療育センター 園長
	木村 浩彰	広島市立リハビリテーション病院 副院長
	栗原 正紀	日本災害リハビリテーション支援協会 代表理事
	斉藤 秀之	日本理学療法士協会 会長
	武久 洋三	日本慢性期医療協会 会長
	土岐 めぐみ	札幌医科大学 助教
	中村 春基	日本作業療法士協会 会長
	深浦 順一	日本言語聴覚士協会 会長
	藤谷 順子	国立国際医療研究センター 医長
	降矢 芳子	東京女子医科大学附属足立医療センター 教授
	三上 靖夫	京都府立医科大学 教授



公益社団法人 日本リハビリテーション医学会

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-18-12 内神田東誠ビル2階
Tel. 03-5280-9700 Fax. 03-5280-9701



<https://www.jarm.or.jp/>